

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 長良特別支援学校 学校運営協議会 (第1回)
- 2 開催日時 令和6年7月5日(金) 13:00～15:00
- 3 開催場所 長良特別支援学校 プレイルーム
開催にあたり、委員による校内見学と授業参観、学校紹介動画の視聴を実施した
- 4 参加者
- | | | |
|-------|--------|------------------------|
| 会 長 | 竹村 真紀 | 長良医療センター 主任児童指導員 |
| 委 員 | 安藤 由美子 | 長良園芸 |
| | 嶋崎 喜代美 | 長良東公民館主事 (欠席) |
| | 平山 由美 | P T A会長 |
| | 棚橋 妙子 | P T A副会長 |
| | 加藤 みき | 重症心身障がい在宅支援センターみらい 看護師 |
| | 白木 祥子 | 難病生きがいサポートセンター 自立支援員 |
| | 下平 悦子 | 長良医療センター 医療社会専門監 |
| 学 校 側 | 広井 隆司 | 校長 |
| | 不破 明美 | 教頭 |
| | 堀 美和子 | 事務長 |
| | 浅野 泉 | 小学部主事 |
| | 芦田 友味子 | 中学部主事 |
| | 河田 恭子 | 高等部主事 |
| | 寺澤 康德 | 教務主任 |

5 会議の概要(協議事項)

(1) 学校運営基本方針について

- ・令和6年度学校運営方針、令和6年度のはじめに皆さんと共有したいこと、校務分掌組織図の説明

(2) 教育活動の実際について

- ・小学部の教育活動
- ・中学部の教育活動
- ・高等部の教育活動

意見1：学校運営方針から学校で大切にされていることがよく分かった。学校紹介の動画も丁寧にとまとめられており分かりやすい。子どもたちが元気であることで地域も輝くと考えている。地域の企業の経営者として学校や保護者とかかわりながら一人一人の心や身体を大切にしたい。

意見2：相談業務にあたっているが、保護者と子どもの気持ちが異なっていることがある。学校運営方針にもあった伝える力を育てることの重要性を感じている。気持ちを伝

える力を育むためにどのようなことに取り組んでいるのか。

⇒在籍している子どもたちは様々で、気持ちの伝え方も様々である。まずは一緒に過ごし、一緒にいる中で感じられることを学校職員も感じる事が大切である。子どもたちが伝えようとして話すこともあれば、思いを吐露することもある。子どもたちが話をしても大丈夫と受け止められるような場所や時間を作ることに学校職員は心を砕いている。また、学校ではスクールカウンセラーと話せる機会もあり、それがきっかけとなって学校職員とも話ができるようになった生徒もいる。

意見 3 : ICT機器の活用が進んでいると感じた。訪問教育の子どもたちも参加できるように工夫されていることがよい。病院に入院している子どもたちも学習できるようになってきていてよい。

⇒訪問教育の生徒の高等部卒業後の進路が大きな課題となってきている。これまでは18歳を見据えて病院の施設に入所される方も多かったが、昨年度は卒業後も在宅での生活を選択される方があった。卒業後の生活について幅広く検討する中で、事業所の訪問的なサービスを受けられることになった。また、卒業後も文化的な活動にふれられる機会をもつための取組としてぎふ清流文化プラザ内のTASCぎふ(岐阜県障がい者芸術文化センター)にも相談するなどしている。

意見 4 : 本人が思っていることをどのように表現するのかはとても難しい。子どもの状況によっても異なる。病院では医療的な決断をしなくてはならない場面でも、本人の気持ちを聞こうと考え、年齢の高い子どもの場合は話し合いに本人に入ってもらったこともある。本人にとってはせつなく負担が大きいこともあるが、本人も一緒に話を聞いて一緒に悲しんだり怒ったり最後は一緒に笑ったりできるとよいと考えている。学校職員も話し合いに入ることでその子どもの学校での様子や病院側が知らない一面を知ることができ、その子どもの力を信じつつ話を進めることがある。学校での取組の全てのことが子ども本人やご家族の力となっていると思う。

意見 5 : 学校の手厚いサポートを受けて学校生活を送ることができている。進路選択の時期でもあり、本人はいろいろな悩みがあると思うが、母親にはなかなか話せないことも学校でスクールカウンセラーに話すことで自分の気持ちに気づいていることもあるようだ。この先も学校と連携しながら前に進んでいきたい。

意見 6 : 子どもの気持ちが汲み取れないということを家庭で経験した。2年程経ってうまく話せるようになってから、あの時はこういう気持ちだったと話してくれたことがあった。本人もうまく説明ができなかったのだということを感じた。自分の思いをうまく表現できないということもあるので、ちょっと待ってみたりその時の状況を聞いてみたりして気持ちを想像している。学校職員にそのような状況を話してみると、いろいろなパターンを想定した話を聞くことができる。自分も子どもの話をいつでも聞けるように、話を聞けるという雰囲気を出せるようにしたい。
⇒想像して寄り添うことや多くの人と関わることで考え方も広がるので、話してみる聞いてみるということを大切にしている。

意見 7 : 病院では気づかない表情やしぐさを学校職員から聞くことがある。病院でも活動の時間はあるが毎日あるわけではないため、気づけない部分を学校職員から聞くと、夏季休業中の過ごし方、卒業後の過ごし方について考えさせられる。病院で医療のもと安全に生活できればよいかというQOLを考えるとそれだけではないかもし

れないと感じることもある。

(3) 作業製品の価格について（作業製品価格審査会）

意見1：手間のかかった製品である。もう少し価格を上げてよいのではないか。

⇒教材費で材料を購入しており、販売価格も材料購入費を超えない程度に設定している。

6 会議のまとめ

- ・第1回の学校運営協議会では、参加全委員より今年度の本校の学校運営基本方針について承認が得られた。また、学校運営方針や各部の取組状況等について肯定的な意見やそれぞれの立場からの児童生徒とのかかわりについて多くの意見を得た。
- ・作業製品価格審議会では、参加全委員より生徒の作業製品価格について承認が得られた。
- ・第2回では、学校運営の状況について具体的な取組の経過を報告する。

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 長良特別支援学校 学校運営協議会 (第2回)
- 2 開催日時 令和6年11月7日(木) 13:00~15:00
- 3 開催場所 長良特別支援学校 プレイルーム
開催にあたり、委員による授業参観を実施した
- 4 参加者
- | | | |
|-----|--------|------------------------|
| 会 長 | 竹村 真紀 | 長良医療センター 主任児童指導員 |
| 委 員 | 安藤 由美子 | 長良園芸 |
| | 嶋崎 喜代美 | 長良東公民館主事 |
| | 平山 由美 | PTA会長 |
| | 棚橋 妙子 | PTA副会長 (欠席) |
| | 加藤 みき | 重症心身障がい在宅支援センターみらい 看護師 |
| | 白木 祥子 | 難病生きがいサポートセンター 自立支援員 |
| | 下平 悦子 | 長良医療センター 医療社会専門監 |
-
- | | | |
|-------|--------|-------|
| 学 校 側 | 広井 隆司 | 校長 |
| | 不破 明美 | 教頭 |
| | 堀 美和子 | 事務長 |
| | 浅野 泉 | 小学部主事 |
| | 芦田 友味子 | 中学部主事 |
| | 河田 恭子 | 高等部主事 |
| | 寺澤 康德 | 教務主任 |

5 会議の概要(協議事項)

(1) 教育活動報告

- ・訪問教育ビデオ紹介
- ・小学部の教育活動
- ・中学部の教育活動
- ・高等部の教育活動

意見1: 校外学習や修学旅行等の実施にあたり、事前学習をしっかりと行っていることをはじめ、児童生徒のペースに合わせて分かりやすく取り組んでいることがよい。

意見2: 一人一人の状態に合わせて指導し、児童生徒の思いを繊細に受け取っている。

意見3: 修学旅行の経験は、心に残って将来役に立つ。

意見4: 病院で見る姿とは違う姿があった。本人がすべて自分でやるのが自立ではなく、人の手を上手に借りることができるようになることが大事である。自分が何をしてほしいか、何を手伝ってほしいか、どんなふうに分かってほしいのか等の「伝える」という力をつけていけるとよい。

(2) 「教育活動に関するアンケート」集計結果の概要

- ・全体の回答数及び回答傾向について報告
- ・各設問項目について、回答結果の分析について説明

意見1：学校からの様々な発信はできているが、受け手側の立場の違いで「分からない」という回答となる。

意見2：交流等、地域の中がかかわり合うことができるとよい。上手に共に生きていくことが、これからの時代においてとても大切である。店舗での学校紹介などもできるとよい。協力できることがあれば一緒にやっていきたい。

意見3：公民館の文化祭があり、作品展示や作り方の交流にも参加できるとよい。

意見4：我が子が自立するために、急いでいろいろ技術を身に付けさせようとしたが、「助けてほしい」と言ってよいということを伝えたい。

意見5：保護者は親なき後のことを心配されている。自分のことを伝えられることが自立だと思う。

意見6：学校でも目指すところは「自立」であり、「助けてほしい」と言えることは大切である。

意見7：アンケートがあることで学校のことを考えるきっかけとなる。授業の様子を参観してもらうことや作業製品の販売をすること等、小さな一つ一つが発信につながる。

(3) 作業製品の価格について（作業製品価格審査会）

意見1：昨年と比べてレベルが上がり立派な製品となっている。

- ・参加全委員より生徒の作業製品価格について承認が得られた。

6 会議のまとめ

- ・第2回学校運営協議会では、授業参観や各部の教育活動の報告を通して第1回の意見を踏まえた「伝える力」をテーマに、児童生徒の様子や当校の教育活動についてより具体的な様子を知り得ることができた。また、学校アンケートの集計結果の説明を通して、当校の現状や課題についても理解を得て、「伝える力」にもつながっていることを確認できた。
- ・第3回では、学校アンケート等から得られた当校の課題に関して、その後の改善の取組みについて進捗状況等の報告を行い、教育活動の方向性についての説明を行う。

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- | | | | | |
|---|------|------------------------|--------|------------------------|
| 1 | 会議名 | 長良特別支援学校 学校運営協議会 (第3回) | | |
| 2 | 開催日時 | 令和7年2月21日(金) | | |
| 3 | 開催場所 | 書面による開催 | | |
| 4 | 参加者 | 会長 | 竹村 真紀 | 長良医療センター 主任児童指導員 |
| | | 委員 | 安藤 由美子 | 長良園芸 |
| | | | 嶋崎 喜代美 | 長良東公民館主事 |
| | | | 平山 由美 | PTA会長 |
| | | | 棚橋 妙子 | PTA副会長 |
| | | | 加藤 みき | 重症心身障がい在宅支援センターみらい 看護師 |
| | | | 白木 祥子 | 難病生きがいサポートセンター 自立支援員 |
| | | | 下平 悦子 | 長良医療センター 医療社会専門監 |
| | 学校側 | 広井 隆司 | 校長 | |
| | | 不破 明美 | 教頭 | |
| | | 堀 美和子 | 事務長 | |
| | | 浅野 泉 | 小学部主事 | |
| | | 芦田 友味子 | 中学部主事 | |
| | | 河田 恭子 | 高等部主事 | |
| | | 寺澤 康德 | 教務主任 | |

5 会議の概要(協議事項)

(校長より)

一年間、委員様におかれましては、当校の教育活動に様々視点から貴重なご意見やご助言をいただき、感謝申し上げます。

この先の将来におきましても、より充実した病弱教育を推進していきますので、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(1) 各部の年間反省

意見1: コロナ禍で縮小されていたクラスや部を越えた交流が増えてきていることは、保護者としてとてもうれしい。

意見2: 「個に合わせたICTの活用や教材教具の工夫」について、アプリやスイッチ教材を使用して教職員と言葉を掛け合いながら学習する児童生徒の姿を、授業参観時に見ることができた。各部で積極的に取り組まれていることが分かった。

意見3: 児童生徒にとって最も大切な力の一つがコミュニケーション能力である。様々なスキルの習得と同時に、人と人とのかかわりの中で、うまくつながっていく術を学んでほしい。

- 意見 4 : いろいろな人とかかわった経験が、児童生徒が社会とつながるときに役立つ。学校生活の中で、人とのかかわりを大切にしてほしい。
- 意見 5 : 来年度に向けた改善方策案を基に教育実践を進め、児童生徒のたくさんの笑顔につなげてほしい。
- 学 校 : 第 2 回のご意見「『かかわり合う』『伝える・伝わる』ことができる」とのことから、反省の際に参考にし、来年度の改善方策に、日常的な交流や地域交流の重点を挙げた。学校周辺のウォーキングや店舗利用を積極的に行い、また ICT 機器の活用により訪問教育の児童生徒にも地域の様子を学ぶことができるようにしていきたい。地域の方のご理解やご協力に感謝している。
- 学 校 : 情報公開や発信の仕方については、引き続きご意見をいただきながら検証していきたい。
- 学 校 : 専門家支援による、職員の専門性の向上を今後も図っていきたい。病院関係、卒業後の進路先、在学中の相談関係機関等、様々な方面からご教示いただきながら研修していきたい。

(2) 各校務分掌の年間反省

- 意見 1 : 保護者対象に実施された年金セミナーに参加し、学生生活終了に合わせていつ頃から動き始めるとよいのか等のタイミングを知ることができた。今後も、就労や福祉分野等の専門家によるセミナーを開催してほしい。
- 意見 2 : キャリア学習や進路支援等が計画的に実施されていることが分かった。児童生徒や保護者への早くからの支援が大切である。また、保護者の理解や取組への認知に応じた個別の丁寧な対応が必要である。
- 意見 3 : 「ひびきあい月間」における「あったかハート活動」は、普段当たり前に思っていたことに感謝の気持ちや喜びを感じることで、お互いの存在そのものに感謝できる取組である。
- 意見 4 : 便りや通信等の発信により、学校の取組を知ることができる。児童生徒がもてる力を発揮して重ねた学びの成果を、児童生徒が主体となって発信することが、かかわる方全てのやりがいや生きがいになる。
- 学 校 : 来年度は、計画どおり大規模改修が行われる。より快適に学校生活を送ることができるよう皆様のご意見を聞き、取り入れていきたい。

6 会議のまとめ

- ・第 3 回の学校運営協議会では、書面による開催ではあったが、参加全委員より今年度の各部・分掌における年間反省と来年度の改善方策についてのご意見が得られた。また、各部・分掌の具体的取組について、肯定的な意見やそれぞれの立場からのご意見も得た。各部や分掌で共有し、保護者や関係機関、地域との信頼関係のもと、引き続き安心・安全な学校運営をしていく。
- ・来年度は、各部の年間反省や各校務分掌の年間反省を受けた「全体的なまとめ」を資料として示すとよい。
- ・次年度の学校運営協議会においても、児童生徒の学習の姿や教育活動における取組を話題にあげて協議を深めていく。